

地域と歩み新たな役割を果たす

国保上矢作病院

誰もが安心して健やかな暮らしを送るために欠かせない医療。市は2つの病院と6つの診療所（歯科診療所を含む）を運営しています。市南部地域を中心に一般医療や救急医療の拠点として、山間へき地の地域医療を推進する国民健康保険上矢作病院。開院から40年の歴史の中で、地域の医療や福祉においてさまざまな役割を担ってきました。高齢社会を迎えた今、病气やけがからの回復期や自宅での生活復帰を支える、新たな取り組みが進められています。今回の特集では、その取り組みや地域に果たす役割を紹介します。（以下、国保上矢作病院と表記します。）

□問い合わせ 国保上矢作病院 4712211

国保上矢作病院の歩み

国保上矢作病院は、昭和50年に国保上矢作診療所として病床19床で開所し、昭和52年4月に国保上矢作病院として病床50床の病院となりました。以後40年間、医療と福祉が密接に連携した地域包括医療を目指してきました。

病院の役割は、周辺地域の方々が安心して暮らすことができる医療施設であり、とりわけ国保上矢

作病院は市南部地域をはじめ、愛知県・長野県の県境地域にある「へき地医療拠点病院」としての役割も担っています。現在も24時間体制の救急病院としての機能を維持しています。昭和53年には公共交通機関の無い地域へ、患者送迎バスの運行開始。昭和59年には人間ドック開始。翌60年には住民健診全町実施など、住民の意向に寄り添った医療を行ってきました。当時の上矢作町は、福寿草の自

生地があることから「福寿の里上矢作町」として、福祉や健康、長寿と結びついたまちづくりを進めてきました。国保上矢作病院はまちづくりの重要な役割を担う施設の一つとして位置付けられました。高齢化が加速し始めた平成15年には、地域の需要に対応するよう、長期入院が可能となる療養病床を開始しました。

地域包括ケア病床を導入

平成26年度、厚生労働省の診療報酬改定に伴い、在宅医療を厚く支援する病床となる地域包括ケ

ア病床が新設されました。

また、国は平成29年度末までに、療養病床の介護療養病床と医療療養病床を減少するとの方針を発表しました。さらに、平成28年度の診療報酬改定により、これまでの医療療養病床の施設基準がより一層厳しくなりました。このような全国的な状況の変化により、国保上矢作病院では要件を満たすことが困難になってきました。

そこで昨年11月、急性期治療後のリハビリや在宅復帰へ向けた医療支援を行う地域包括ケア病床への転換を行いました。転換にあたっては、地域包括ケア病床が適応可能であるかを検証するため、平成27年5月に14床、昨年5月には21床に増やして試行しました。その結果、患者や家族にも十分受け入れられ、病院としても順調に運用できたため、昨年10月末で療養病床を廃止して、一般病床19床、地域包括ケア病床37床の計56床で運用を開始しました。

地域包括ケア病床は、患者のみならず介護者にとっても、利用しやすい病床といえます。例えば「親の介護のため家を改築するまでの間、リハビリなどをしながら療養できた」と「よく熱が出たりして介護施設に通えない」「病院で入院しながら介護指導してもらいた

い」「父の介護で母が疲れているので、少し休ませてあげたい」など、さまざまな理由にも利用が可能です。短期間から60日間までの入院が可能で、手厚いリハビリ計画や入院相談ができます。かかりつけ医や介護サービス事業所との連携も綿密に行われます。国保上矢作病院は、地域包括ケア病床への転換で、病气やけがからの回復期や、地域での生活復帰を支援するという新たな役割も果たすことになりました。

信頼を生む医師体制

現在、常勤する医師は3人。外科を受け持つ西脇院長をはじめ、内科を受け持つ安藤医療管理者と県派遣医師の岩田医師が診療を支えます。他に非常勤医師が5人で、外科と内科の他、整形外科と放射線の医師が担当の曜日に診療しています。

国保上矢作病院は24時間体制の救急病院でもあります。夜間や休日の救急体制は常勤の医師だけでなく、県立多治見病院や名古屋国立大学病院、愛知県がんセンター中央病院からの応援医師による支援態勢が確保されています。切れ目のない万全の医師体制が、信頼と安心感を生み出しています。

診療の概要

- 受付時間
午前診療 午前8時30分～午前11時30分
夜診療 午後5時～午後6時30分
- 診療
内科・外科 平日毎日
整形外科 水、金曜日（予約制）
救急診療 24時間受付（電話受付）
往診 平日午後
医師派遣 第1～4週火曜日午後（国民健康保険串原診療所）
- 健診 特定健診から各種がん検診、人間ドックなど
- 入院 一般病床56床（一般病床19床、地域包括ケア病床37床）
- 休診 土、日曜日、祝日、12月29日～1月3日
- 医師 常勤医3人、非常勤医師5人、他に夜診当直医師、休日救急体制支援医師



▲親しみのある外来診察



▲ナースステーションで患者の容体を共有

患者を支える院内の業務

●薬局
薬剤は病気の治療において欠かせませんが、主な業務は入院や外来の内服薬や外用薬の調剤、入院の注射薬のセツト業務などです。



▲高齢者に優しい院内薬局

一番の特色は、病院内で薬を調剤し患者に渡す院内処方を行っていることです。病院内で処方薬を受け取るため、移動が大変な高齢者に不便をかけない、処方の変更などに対処しやすいなどの利点があります。

●栄養科
入院患者の毎日の食事作りを行っています。

医師の指導による治療食により、食事を通して病気の治療や生活習慣の改善につなげています。入院生活において、食事を通して少しでも楽しんでいただくと、特別メニューとして、毎月一回の松花堂弁当や、秋の五平餅、冬の回転ずしなどを提供しています。旬の材料や地元農家で作った

お米を使い、目と舌で四季を感じていただいています。

●リハビリテーション科

整形疾患、脳血管疾患などを対象に、急性期から回復期、生活期にわたって、家庭や社会への復帰を目標とする理学療法を実施しています。



▲歩行訓練による運動療法
運動療法では、日常生活で必要な寝返りや起き上がり

の基本動作や歩行訓練を行います。退院前自宅訪問や訪問リハビリにも取り組んでいます。

物理療法では、リラクゼーションのための電気治療や温熱、牽引、ウォーターベッドなどを使い、痛みの緩和や血液循環の改善を行っています。

●臨床検査科

一般的な検査の他、血液凝固や生化学免疫、生理、微生物、輸血などの各種検査を行っています。院



▲顕微鏡で入念に検査

内感染対策や栄養サポート、糖尿病教室などでは、院内各科の医療連携チームによる支援を行っています。人間ドックや各種健診検査では、隣接するかみややぎ総合保健センターと連携し、病気の早期発見や治療、予防につなげています。

●放射線技術科

撮影室が4部屋あり、一般撮影検査（胸、腹、骨）、造影検査（バリウムを使用した胃・大腸検査や造影剤を使用した検査）、CT検査、骨密度測定検査（腰椎、大腿骨、前腕骨）、マンモグラフィ検査を行っています。休日や夜間にも、24時間体制で対応しています。

●訪問看護ステーション

利用者の自宅に訪問して、療養支援する訪問看護を行っています。医療や介護、予防、生活支援といった幅広いサービスを提供し、安心して暮らすにつなげています。入院または在宅の選択が不安なくできるよう、医療機関や介護施設と連携した対応を行います。



▲訪問看護へ出発する職員

地域の皆さまの願いに寄り添える病院を目指して

にしわき なおき
病院長 西脇 巨記

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本医師会認定産業医
平成22年4月から病院長に就任



国保上矢作病院が歩んだこれまでの経緯や地域医療の現状、取り組む変革とは。地域にとってどのような病院であり、今後、目指す姿は。日々、患者のために奔走するとともに、病院経営に手腕を振るう西脇病院長に伺いました。

—これまでの歩みと現状をお聞かせください。

当院は、昭和50年6月に国民健康保険上矢作診療所として開設され、昭和52年に国民健康保険上矢作病院となり、40年が経過しました。

市町村合併以前は、恵南地区の唯一の病院として、交通事故や重篤な疾患もすべて当院に搬送されており、救急病院としてやってきました。しかし、ここ数年の考え方として、交通事故などの高度外傷や重篤な疾患は、県病院などの3次救急へ搬送すべきとのことから、当院への搬送は慢性疾患を持つ高齢者が中心となりました。

上矢作町をはじめ、恵南地区は高齢化が急速に進んでいます。高齢になっても住み慣れた

地域で、できるだけ長く過ごしたいというのが、皆さまの願いです。当院では、この願いにできるだけ寄り添えるような病院を目指し、変革して参ります。

—具体的にどのように変革されるのでしょうか。

多くの病院では10～20日ほどの入院期間で、病気の急性期を切り抜けたら退院となるのが一般的です。しかし実際には自宅で生活できるレベルに戻っていないことが多くあります。

そこで当院は地域包括ケア病床を導入しました。2カ月以上の入院が可能であり、自宅に戻られた時にできるだけ元の生活ができるように、生活全般のリハビリを行っています。

また、日々の介護は大変な労力を使うことから、介護者の休息目的の入院も積極的に受け入れています。

—地域のための取り組みをご紹介ください。

病院送迎バスを以前より導入し、地域の皆さまの足として利用していただいています。それ

でも通院が困難になった方のために、往診も毎日行っています。訪問看護ステーションも併設しており、自宅で過ごされる患者様の看護やリハビリを行い、ご家族の介護の心配事なども医学的な立場からアドバイスできるようにしています。

当院だけでは在宅生活のすべてをまかなうことができませんが、当院の相談員2名により近隣のさまざまな施設と連携し、できるだけ快適な在宅生活ができるサポートをしています。

—今後の目標や願いをお聞かせください。

当院の目標は、患者様が、住み慣れた地域でできるだけ長く生活できることです。皆さまが上矢作病院を気軽に便利に使っていただければと願っています。

▼往診先で言葉を交わす西脇病院長



利用者の声

～あなたにとってどんな病院ですか？～



岩村町 松田武さん

20年以上前から利用しています。長年を通して先生が自分の体のことをよく分かってくださるので信頼しています。看護師さんとても親切なので、少し遠くても車で通っています。



上矢作町 川上越子さん

健康と心を守ってくれている大きな存在で、よりどころになっています。いつでも受け入れていただけるのでありがたい。高齢化や過疎化する地域にとって命のとりでのような存在です。